

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0272701228		
法人名	社会福祉法人吉幸会		
事業所名	グループホームみろくの郷		
所在地 (電話番号)	〒039-0313 青森県三戸郡田子町茂市字仲田2-2 (電話) 0179-33-1300		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年4月14日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 6月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	280 円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(1月 17日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	11 名	要介護4	5 名
要介護5		要支援2	名
年齢 平均	87 歳	最低	75 歳
		最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立田子診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の自然豊かな環境の中で、季節の移り変わりを楽しめる場所にある。自治会に加入し地域活動に参加したり、夏祭りを通して交流が深められている。グループホームのホールは、コミュニティーバスの待合所や子供達が集う場所となり、地域の方が自由に入出りできる空間となっている。防災訓練を地域と協同で実施するなど、地域に根ざし、なくてはならない存在になっている。職員は、利用者を家族のように思い、親しみやすい言葉がけをし、互いに支え合える関係を築いている。家と同じように過ごせるよう居心地の良い空間づくり心がけている。また、職員個々が手の届く目標を立て、質の向上に向け自己研鑽している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策について、食料や飲料水、備品は同地区にある法人本部に備えてあり、すぐ支援して頂ける体制にある。地域住民参加の防災訓練を実施し、更に地震災害に備え、避難場所を検討している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニット毎に職員から意見を吸い上げ、管理者が取りまとめている。外部評価の結果を基に会議等で話し合い、改善に向け取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、事業所の状況や行事計画、自己評価、外部評価後の取り組みについて報告している。出席者から提案を頂き、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	日頃から話しやすい雰囲気づくりに心がけ、面会時に意見や要望を伺うようにしている。また、地域交流の場でも意見を伺い、職員間で話し合いをもち改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し地域活動に参加するほか、地区の小・中・高校との交流を持ち、学校行事への参加、ボランティアや職業体験の受け入れ、保育園児とのふれあいの機会を設けている。また、夏祭りに地域の方を招待してグループホームを理解してもらい、交流の中から認知症への理解が深まるよう取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認しながら、地域の中でその人らしく生活することを支援する理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、唱和して全職員に周知している。会議等で確認しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域自治会に加入し共同作業や地域活動に参加するほか、地区の小・中・高校との交流をもち、学校行事への参加、ボランティアや職業体験の受け入れ、保育園児とのふれあいの機会を設けている。また、夏祭りに地域の方を招待してグループホームを理解してもらい、交流の中から認知症への理解が深まるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価のねらいや意義について職員は理解している。自己評価は、ユニット毎に職員から意見を吸い上げ管理者が取りまとめている。外部評価の結果を基に会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、事業所の状況や行事計画、自己評価、外部評価後の取り組みについて報告している。グループホームからの議題ばかりではなく、出席者から提案を頂き、サービス向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも町担当者に連絡を取り、その場で話し合いをしたり、来訪して頂き早期の課題解決に向けて取り組んでいる。地域包括支援センターとも連携をもち、必要に応じて指導や助言を受けている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内部研修にて全職員が制度を理解しており、必要時には関係機関と連携して支援できる体制にある。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、外部・内部研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について理解している。マニュアルに沿って虐待防止に努めながら、職員間で注意し合える関係づくりをし、見過ごされないよう取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、法人相談員と管理者の2人で、十分時間をかけて納得を得られるよう説明している。また、契約解除の際の説明も十分に行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりがわかる広報誌や個人通信を毎月作成して家族に郵送しているほか、電話等での報告もしている。また、金銭利用状況を出納簿で管理し、面会時に家族の確認を得ている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から話しやすい雰囲気づくりに心がけ、面会時に意見や要望を伺うようにしている。また、地域交流の場でも意見を伺い、職員間で話し合いをもち改善に努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時には1ヶ月間の引継ぎ期間を設けて心理的な影響に配慮している。新職員の紹介を広報誌に載せて家族に紹介している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に努めており、年間研修計画を作成して研修を実施している。外部研修参加後、法人本部での報告会をして力量を高める取り組みも行っている。また、職員の経験に応じた研修や希望(持ち込み)研修への参加にも配慮している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流があり、相談できる関係が築かれている。三八地域グループホーム協会に入会し、研修会や懇親会で意見交換をするなど交流が図られている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や担当ケアマネから情報を得たり、必要に応じて2人で訪問して、暮らしぶりを確認している。厚い情報を得ることで場の雰囲気に早く馴染め、職員の観察や対応がスムーズにできている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができることや意向を確認しながら畑作業や郷土料理を一緒にすることで、楽しみを共有している。利用者と職員が互いを家族のように思いやり、教え合いそれを活かす関係が築けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いや意向を把握するよう努めている。アセスメントシートを活用したり家族等から情報収集をして、利用者の視点に立って意向確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合い、利用者本位の介護計画書を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員が状況を確認し、他職員からも情報を得て評価し、毎月見直しを行っている。また、利用者の身体状況や希望等の変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、帰宅、墓参りなど希望に沿った外出支援を行っている。また、グループホームのホールが、コミュニティバスの待合所となったり、子供達が気軽に立ち寄れる場所となり、地域住民との交流を楽しめる場でもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する病院やかかりつけ医への受診支援がなされている。医療との連携が図れ、服薬指導や療養指導を受け、体調変化や心配事への相談も気軽にできる体制が整っている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、家族にグループホームでできること、できないことを説明しながら十分時間をかけて話し合い、対応や方針を決めている。かかりつけ医や協力医療機関と連携し、家族の思いを大切にしながら全職員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合う言葉がけをし、利用者の表情に注意が払われている。 個人記録等の保管場所や取り扱いにも注意が払われている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、体調に合わせて急がせたり我慢させないよう希望に沿った支援に心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を実施し、法人内の給食会議で食事を楽しめるよう話し合いがされている。オードブルや出前等にも対応している。糖尿病食の方や、人前で食事できない方への配慮もされている。食事の準備や片付けは、利用者の状況や意思に応じて一緒に行っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	20時～7時以外は入浴可能であり、利用者の体調や希望を確認して入浴支援している。檜の浴槽で安全面にも配慮がされ、木の香りを楽しみながら入浴できている。足浴希望者にもすぐ対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことややりたいことを確認しながら実現できるよう支援している。ゲームや畑作業、装飾品作りなど柔軟に対応している。食事の準備や片付けは、利用者同士で役割を決めて協力して行っている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物や散歩、ドライブ等外出する機会を設けている。また、地域の行事や学校行事、山菜採り等、季節を楽しめる外出支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修を受けて、身体拘束となりうる具体的な行為について理解し、一人ひとりに合った対応をすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。声かけにも配慮され、精神的にも拘束とならないよう全職員が注意し合っている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、セコムの警備システムを利用している。日中は誰でも気軽に訪問できる雰囲気がある。利用者が外出したい思いを受け止め、職員間で見守り・声かけをしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月昼夜想定避難訓練を実施しているほか、消防署への通報訓練、職員連絡網確認等も行っている。地域住民が参加しての防災訓練も年1回実施している。法人本部に非常食や備品を常備して災害時に備えている。冬期間は、緊急車両が出入りしやすいよう除雪を地域の方が行ってくれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士が献立を作成しており、1日の食事・水分摂取量を職員が把握し、パソコンで管理している。毎月体重測定をして変化のある方には、協力医や法人栄養士から助言や指導が得られる体制が整っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが作成され、季節流行のあるものに関しては、内部研修会等で職員へ周知されている。手洗いうがい・アルコール消毒を励行し、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳敷きの小上がりや囲炉裏があり家庭的な雰囲気である。畳に横になったりソファで過ごすなど、思い思いに好きな場所でゆったり過ごせる環境にある。窓からは山や田んぼを見渡せ、季節感を楽しむことができる。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物を持ち込むよう働きかけ、自宅の環境に合わせて家具などの配置転換をしている。写真や作品を利用者の希望に合わせて飾り、居心地の良い部屋作りに努めている。</p>		

 は、重点項目。